可燃ごみを活用した固形燃料の製造

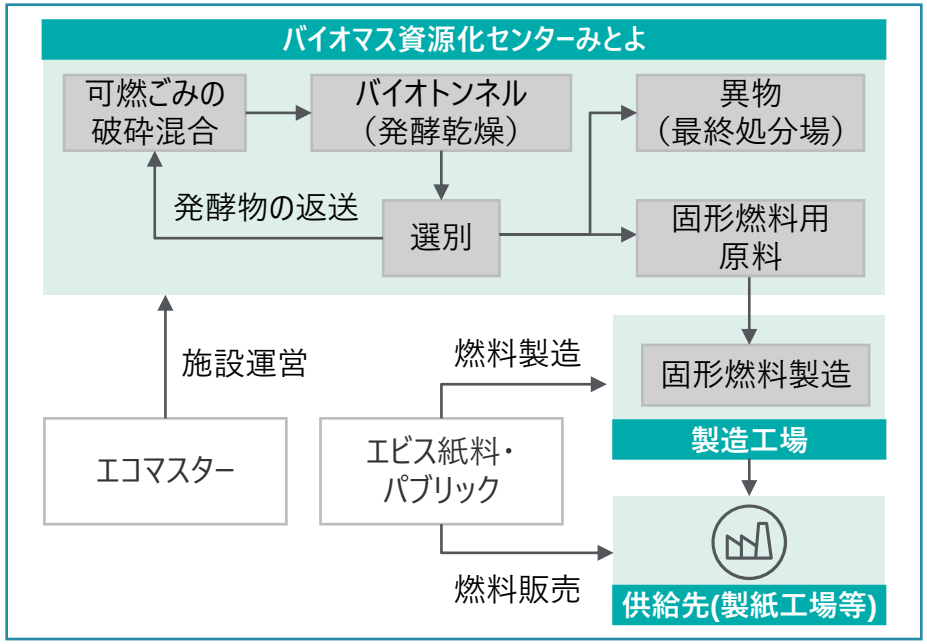
ごみを燃やさず資源化できるトンネルコンポスト方式を導入し、地域の可燃ごみから固形燃料の原料を製造

環境省

事例概要

事業者	• 株式会社エコマスター （エビス紙料株式会社と株式会社パブリックの共同出資）
地域課題	地域資源の有効活用、産業界のエネルギー転換
事業概要	• 2017年4月に、家庭や事業所から出る可燃ごみを発酵・乾燥させて固形燃料の原料としてリサイクルする日本初の「トンネルコンポスト方式」の工場である「バイオマス資源化センターみとよ」が稼動開始 • 三豊市の可燃ごみ1万t/年を収集し、バイオトンネルで発酵・乾燥させた後、紙・プラスチックなどを固形燃料工場へ搬送して固形燃料4,500tを生産 • 供給先として、近隣の大手製紙会社と確約書を締結しており、製造したごみ由来の固形燃料が石炭の代替として使用されることでCO2排出量を削減 • 焼却施設の新設が困難な自治体などを対象に今後、日本全国で展開を想定している
実施状況（2022年12月現在）	事業化済み（2017年4月）
補助事業の利用	• 平成27-28年度 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（廃棄物エネルギー導入・低炭素化促進事業、低炭素型廃棄物処理支援事業）（環境省）
CO2削減効果	10,171.6 t-CO2 （2021年度実績）

事業スキーム・体制



バイオマス資源化センターみとよ

固形燃料

出所：株式会社エコマスター Webサイト